

H E HAS ALWAYS TOP RUNNER WITH A NAIVE SMILE, AND HE TAKES PART IN JPGA 'HARD, TOUR.

広田幸祐=文
interview and text by Kōsuke Hirota

トレンドゴルフ開花の先陣、芹沢信雄。



とにかく、よく笑う男だな。これが、
彼に会って最初に抱いた印象であった。
まさか、そのときはこの笑顔がそんなに
大切に、大変なことだとは思いません。
ただ、まっ黒に日焼けした顔からのぞく白い歯に
男前を感じていただけだった。
芹沢信雄、その真髄に肉迫する。

THE
SPECIAL
INTERVIEW

や

やっぱり芹沢は男前やなア。ラウンド前、パッティングの練習場で他のプロとニコニコしながら練習する彼をギャルの肩越しに見て、そう言うってティーグラウンドに向かうオジサン数名。練習用の3つのボールをキッチンと横一列に並べて、コッソ、コッソ。コッソ。球筋を見ながら、他のプロと芝目がどうの、ラインがどうのとやっている。

第14回三菱ギャラントーナメントが行われたここ、ゴルフデンバーゴルフ倶楽部は日本国内でも屈指の難コース。中でも、ワングリーンのベントのグリーンはアンジュレーションがかなりきつく、プロでさえ3パットを連発してしまうという難しさ。ということ、彼がコッソ、コッソとやっている練習グリーンも当然アンジュレーションがきつく、フィーリングが掴みにくいわけである。この日は予選ラウンド初日、芹沢選手は最終組ひとつ手前のスタートで、中村通、白浜育男の両選手とラウンド。60数名の選手がイン・スタートでティーショットして最終ふたつ前の組の選手がティーグラウンドにあがってきたとき、どういうわけか、芹沢選手もそれに付いてあがってくる。あれ、と思っていると、そのままスタート地点に設けられたテントの中へ。そして、係の女の子に何やら話しかけた後、テントの中のベンチに腰かけ、前の組のティーショットを待っている。いくらテキパキしたプレーが売りといっても、これには驚かされた。それまでにスタートした選手達はティ

HE HAS ALWAYS WITH A NAIVE AND HE TAKES PART IN JPGA 'HARD, TOUR

トレンドゴルフ開花の先陣、芹沢信雄。

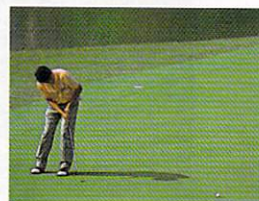


ーグラウンド上で談笑する人はまだいいほうで、さすがに難コースに出ていく前だけに緊張している人が多かった。だというのは、彼はニコニコしてテントの中に座っている。この器の大きさ、天真爛漫なこと。前の組が出発した。しかし、その前の組の3人が全員セカンドショットを打ち終わるまではティーグラウンドで待つことになる。芹沢選手はテントから出てくると、今度はティーグラウンド前方でクラブをビュンビュン振り回し始めた。ティーショットの少し前まで彼はその動きをティーグラウンドのあちこちで続けてい



る。まるで、今年の不調とこのコースの難しさ、そしてこれから勝負に挑むその障害となるものすべての存在を忘れようといわんばかりの勢いで。顔つきもだんだん厳しくなっていく。

「お洒落てファッショナブルなスポーツとしてゴルフがもてはやされてきていて、女性がゴルフ場に男性を誘って、ゴルフ場でデートする時代。ファッションからでも何からでもいいから、ま



この日はロングパットがよく決まっていた。思い切りのいいパッティングだ。

プレー中に目に付くのは笑顔ではなく、キビキビした動作だった。足早にボールまで移動、特にグリーンでは大股で足早にラインを読んで闊歩するのが印象的だ。「この球でいこう」という決断が早く、打ってみてダメでも切り替えがまた早く、とにかく歯切れがいい。勢いづく強いタイプだ。昨年もシーズの後半に調子をあげ、最終戦の大京オープンに優勝、賞金ランキングも堂々の6位に入った。昨年の通算成績で見ると、バーディー数349(3位)が光っている。この数字などはまさに彼らしい、思い切りの良さが顕著に表われている例といえるよう。

芹沢 信雄

1959年11月生まれ、30歳。静岡県出身。173cm 65kg。昨年のJPGA賞金ランキングは50,697,499円を稼ぎ、堂々の第6位。今年は今まで10試合に出場(三菱ギャラントを除く)、静岡オープンの5位をはじめ奮戦し、ランキング46位。昨年後半の活躍を思えば少し物足りない感じ。ツアー参加以外にも、雑誌にTVに引っぱりダコで、人気は上昇するばかり。特に女性には絶大な支持を受けているプロゴルファーである。

「お洒落てファッショナブルなスポーツとしてゴルフがもてはやされてきていて、女性がゴルフ場に男性を誘って、ゴルフ場でデートする時代。ファッションからでも何からでもいいから、ま

ズエンジョイするのはいいことだと思ふ。プロはゴルフで飯を食わなきゃならないけど、そうじゃない人はとにかくまず楽しむこと。それが一番じゃないですか」

彼はこう言って無邪気に笑った。18歳から、ひたすらプロになることだけを目指して始めたゴルフ。彼の言葉にある「食う」ということの厳しさを、彼は天性の明るさで包み込んでプレーしている。30歳になってすぐに優勝した大京オープン。今年はやや低迷しているが、これからの巻き返しは大いに期待できる。もう、若手といわれる時代は終わったのである。



ナイショツ。ギャラリーがどよめく。やはりプロはあがってナンボ、ルックスだけではダメなのだ。それほど背の高い彼のスイングはアマチュアにもずいぶん参考になる、理にかなったものだ。

